

I. 学校法人の概要

1. 建学の精神、使命・目的

(1) 建学の精神「自立協同」

徳島文理大学の建学精神は、「自立協同」である。この建学精神は、学祖村崎サイが明治28年(1895年)7月徳島に私立裁縫専修学校を設立した歴史に由来する。学祖は、「女も独り立ちが出来ねばならぬ」との信念を持ち「女性の自立」を唱えて村崎学園を創立した。昭和20年(1945年)7月、学園は戦火に包まれ灰燼に帰し、村崎サイも学園と運命を共にした。その年の秋、戦野から帰還した村崎凡人前理事長は、学園の復興に精魂を傾け、総合学園の建設を目指した。その過程で、「他からの協力、他への協力なくして、『人間の自立』はあり得ない。」との確信に至り、学祖村崎サイの精神を受け継ぎ、「村崎学園」の建学精神を「自立協同」としたものである。

この建学精神の意味するところは、成長してゆく人間として、「自立」は重要な到達目的であり、「協同」は「自立」を具現化する方法、とするものである。

「協同」は「力を合わせて物事をする」ことなので、個としての「自立」は、「協同」すなわち「他からの協力、他への協力」という体験の中で促される。「人」はその体験を通して人間的な成長を遂げる。学園における教養的教育、専門的学術・芸術探求の教育は、まさに「人間の自立」を促す「協同」の場であらねばならない。

爾来、学園はこのような歴史に基づいた「自立協同」の建学精神のもと、教育を推進し、幼、小、中、高、短大、大学併せて9学部27学科、6大学院、3専攻科、そして、5研究所、1相談室を有する総合学園として発展してきた。

今後とも建学精神のもと、ますます精進し、学術・芸術の探究を通して未来を創造する大学でありたいと願っている。

(2) 使命・目的

本学の使命・目的は、学祖が女性の自立を唱えて建学し、村崎凡人前理事長が第2次世界大戦で軍役に服した経験を生かすとともに、戦後の社会状況から芽生えた近代精神を取り入れ、村崎正人現理事長がドイツ留学で社会経済学を学んだ経験に基づき、新たな国際感覚を吹き込んだこと等から形作られている。その目的は、自立協同の建学の精神を基本に、高度な専門的知識と技能を身につけるための教育と研究及び資格取得を支援し、幅広い教養を身につけた社会人、あるいは研究心と独立心を持って社会に貢献する人材を養成することである。本学は教育機関であると、同時に研究機関でもある。そして、本学の使命は、研究成果を社会に還元し、文化の創造と発展に貢献していくことである。

【参考】各機関の目的

大学……徳島文理大学学則 第1章第1条、第2章第3条第2項

短期大学…徳島文理大学短期大学部学則 第1章第1条、第4条第2項

大学院……徳島文理大学大学院学則 第1章第2条、第5条第2項

専攻科……徳島文理大学専攻科規則 第1章第1条、第2章第2条第2項